

WHO'S WHO 活動報告 (2025年9月~2026年2月)

2025年9月 フラネタリウム満天(北海道ヒーリング) サンシャインてんぼうパーク

以前から、「プラネタリウムを見たいね」と話し合っていたところ、今回やっと実現できました。小学生時代の社会科見学のイメージとは大違いで座席はリクライニング、アロマが香り魅力的な女優さんの心地よい声のナレーション付きで、遠くでは軒らしき音がかすかに聞こえます。(*^-^*)アイヌの人々が名付けた美しい星座の話聞き、神秘的な夜空と迫力のある知床の大自然を堪能しました。次に、てんぼうパークで251メートルの高さから360度のパノラマを見ました。ビルの間を縫うように伸びる高速道路や東京スカイツリーが印象的です。パークという名のごとく人工芝が引き詰められ、小さなお子さん連れや若いご家族も多く、大迫力のガラス窓ではブランコのような椅子もあり、ここは若いカップル向きと思いました。ソフトクリームはなんと空色でした!!



スカイツリーと印象的な空



10月 徳川慶喜公墓所 東叡山寛永寺(根本中堂「叡嶽双龍」、清水観音堂)

昨年、三越日本橋本店で見た寛永寺創建400年の天井絵「叡嶽双龍」が上野に戻ってきたら、寛永寺に行こうと計画していたところ、天井絵が特別公開中のため上野に出かけました。寛永寺まで歩いている途中、徳川慶喜公墓所の案内が目にとまり寄り道をしました。高い塀に囲まれ、門の「三つ葉葵」の家紋が目にとまり、うっそうとした木々が生い茂りひととき広い墓所でした。後日、5代目当主が「墓じまい」を進めていることをニュースで知りました。

根本中堂では僧職の方が丁寧に説明をしてくださいました。天井絵は縦6メートル横12メートルの大きさで、解体した天井板に直接描かれ、再び根本中堂に収められたそうです。「八方にらみ」というように、どの位置からも阿龍、吽龍との目が合い睨まれているようで、迫力を感じます。畳に仰向けに寝転んで「叡嶽双龍」を観たい!!と思いました。コーヒータイムの後、上野大佛と清水観音堂に急ぎました。残念ながら、大佛は16時迄で閉まっていますが、清水観音堂では舞台から有名な「月見の松」を見ようと多くの人が集まっています。「月見の松」は、保護のためか布が巻かれ、大切に育てられていて、普段は見られない大変珍しい景色でした。



昨年の手塚雄二展

包帯を巻いた「月見の松」



11月 卵かけごはん フレーベル館本社 六義園

「TKG」は何の略かご存知でしょうか？TAMAGOKAKEGOHANN（卵かけごはん）のことで、若者に人気があるそうです。六義園の近くに卵かけごはんのお店があり、散策前に立ち寄りました。黄身の色は濃いものから薄いまで様々で、黄身を見ているだけでもおいしそうです。卵2個で丁度良く満腹になりました。

六義園まで歩いていると、雪だるまなどの楽しいオブジェが目にとまりました。フレーベル館の本社建物で、入り口には朝ドラ「あんぱん」の主人公とやなせたかし氏のパネルが展示されていました。1階ショールームにはフレーベル館の昔と今の絵本が展示されており、子育て中に読み聞かせたことを思い出しく感じました。

六義園は、モミジやイチョウなど紅葉の真最中でとても綺麗でした。雪つりを終えた木々が池に映り趣ある景色です。紅葉の時期は大変混雑すると聞いていましたが、平日のせいか思ったほどでもなくゆっくりと紅葉を楽しみました。最後は我らグループお決まりのコーヒータイム、素敵なカフェでおいしいケーキをいただきました。



12月 池袋演芸場 年越しそば

暮れの忙しいときに寄席に行くなんて、ずいぶん暇な人もいると思われるかも知れません。でも、我らグループは行きました。寄席の前に、まず年越し蕎麦をいただきました。十割そばで風味や食感がしっかりとて、とてもおいしかったです。普段は歩かない池袋の歓楽街から、東と西を結ぶガード下の連絡通路（ウイロード）を通り、西側の演芸場を目指しました。連絡通路は、列車が通るたびに頭の上で「ガタンゴトン」と音がします。

演芸場の前にはすでに数人が待っていて、人はどんどん増え圧倒的に男性が多かったです。30分前に並んだので前から2列目の席に座れました。若い噺家さんが高座に上がりスタート、やはり私たちの顔を見た若い噺家さんに「世の中には暇な人がいる」といわれました。演目が進むにつれて、表情やしぐさ、話の間の取り方、手ぬぐいや扇子の小道具の使い方など、その話芸にどんどん引き込まれピーンと張りつめた空気を感じました。最後に、真打の噺家さんの演目を聞いた後は「また寄席に来たい」と思いました。寄席の後は、上の階の昭和レトロな喫茶店でお決まりのコーヒーとケーキをおいしくいただき、話芸の余韻に浸りました。寄席はテレビで見るのとは大違いで迫力を感じました。

天井が低い連絡通路



池袋演芸場番組組	
11月10日	一徳協会稽古会
11月11日	くわん
11月12日	青森
11月13日	柳枝
11月14日	福石
11月15日	あまのこ
11月16日	鶴之丞
11月17日	山嵐
11月18日	天竺
11月19日	年忘れ 鈴ヶ倉福福演会
11月20日	紙切り促見演会
11月21日	奇蹟演会
11月22日	三遊亭あつ歌演会
11月23日	入彦屋乃助演会



2026年1月 新年会 石神井公園散策

今年はいじめての集まりは、我らグループの地元で新年会を兼ねた食事会です。氷が張るほど今期一番の冷え込みではありましたが、元気に全員が集合して話が弾み、あっという間に時間が過ぎました。お料理はどれもおいしくて、支度をせずに頂けるのは最高です。

新年会の後は、春を探しに石神井公園を散策しました。メンバーさんの一人は、池の周りの木を指さして「子供のころ、あの木に登った」等と話しながら、公園を案内してくれました。日陰に薄氷が張る池の周りを歩いていると間もなく水仙と山茶花、咲き始めた紅梅を見つけました。つぎに、池の傍の氷川神社、三宝寺、道場寺に立ち寄ると、蠟梅と見事な白梅と紅梅が咲いています。寒さの中で咲く美しい花に感激しました。後日、メンバーさんのLINEで「雪中四友」という冬の厳しい寒さのなかで咲く4種類の花、水仙、梅、蠟梅、山茶花を指す言葉があることを知り、私たちは全部見たと嬉しくなりました。

再発見の
地元の公園



2月 石神井公園散策 ふるさと文化館(もっと浮世絵でいこ!)ふるさと文化館分室

今月は練馬ゆかりの文化人に注目し、ふるさと文化館とその分室を訪ねました。まず、石神井公園駅から近い檀一雄文学顕彰碑を通り、石神井池を散策しました。野草観察園でセツブンソウやフクジュソウなどの春の野草を見つけた後、茅葺き屋根で松の梁の立派な旧内田家住宅に行きました。旧内田家住宅では、ちょうど7段飾りの立派なお雛様をかざっていました。隣のふるさと文化館では幕末や明治期の浮世絵を企画展示中で、見事な役者絵やユーモラスな「嵌め絵」「寄せ絵」という技法の浮世絵に、たいへん驚かされました。昼食はふるさと文化館の中にあるうどん屋さんで、とてもおいしい出汁でコシのある手打ち麺をいただきました。

次に、石神井松の風文化公園にあるふるさと文化館分室に行きました。この建物は日本銀行グラウンドの旧クラブハウスで、すてきなステンドグラスが目を引きます。一階は、再現された檀一雄氏の書斎と練馬ゆかりの文化人が紹介されていて、2階は「オーディオの神様」と呼ばれた五味康祐氏の貴重な音響機器が展示されています。ちょうど、メンテナンスのための音出しでレコードを聴くことができました。短時間ではありましたが、立派なスピーカーで臨場感のあるクラシックを楽しみました。

春を待っていたように
咲くミツマタ
良いにおいがします

